

令和元年度 第3回 第3次栗東市食育推進計画策定会議 会議録要旨

日 時	令和元年10月18日（金） 午後1時30分～午後2時30分
場 所	栗東市総合福祉保健センター集会室
出席委員	田中優委員（会長）、増田江利子委員、鶴飼周太郎委員（副会長）、富田文代委員、山内宏美委員、杉田聰司委員、大橋一天委員、廣瀬國子委員、山内亜紀子委員、竹橋貴美子委員、前原美幸委員、本間由樹委員、泉千春委員、山元美千子委員
欠席委員	秋山直哉委員
事務局	学校教育課長、幼児課担当、学校給食共同調理場担当、農林課長、農林課担当、子ども・健康部長、子育て応援課担当、健康増進課長、健康増進課長補佐、健康増進課担当2名
事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市民憲章唱和 3. 挨拶 4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回策定会議からの修正点の報告 (2) 第3次栗東市食育推進計画（案） (3) 食育とは (4) パブリックコメントについて 5. その他 6. 閉会

1. 開会

2. 市民憲章唱和

3. 挨拶

- ・会長が挨拶を行った。
- ・事務局より傍聴者はいないことを報告した。

4. 協議事項

会 長：この会議は原則公開となっている。会議の公開について、自由闊達な意見交換がで
きなくなる協議事項の場合や、会議の公正かつ円滑な運営に支障が生じると認めら
れる協議事項の場合は非公開とすることとなっている。本日の協議事項について、
非公開とすべき協議事項はあるか。特にないものとするが、委員の皆様よろしい
か。

・意見なし。これにより、本日の会議は原則公開となった。

(1) 前回策定会議からの修正点の報告

・事務局が、前回策定会議からの修正点の報告を行った。

(2) 第3次栗東市食育推進計画（案）

・事務局が、計画書の構成や評価指標、取組等について説明を行った。

会 長 事業について、P48のNo39は担当部署が長寿福祉課になっているため、高齢者向け
ということによいか。

事務局 その通りである。

会 長 P42の評価シートで、「つながる」の一人で食事をする人の割合の設問が「家族と
一緒に夕食を食べるのは週に何日くらいですか」となっている。私は共食という
概念を、家族に限らず自分以外の人と食べることに捉えていたが、家族形態が多
様になっているなかで、この質問で共食の割合を正確に測ることはできるのか。
質問内容を「自分以外の誰かと一緒に夕食を食べるのは週に何日くらいですか」
とすれば、その項目を選ばなかった人は1人で食事をとっていると考えることが
できると思う。その辺りはどのように考えているか。

事務局 本来であれば、家族だけでなく、自分以外の人と夕食を食べる割合としたかった
が、経年的に実施している調査の中にそうした項目がなかった。今後の課題とし
て、自分以外の人と食事をした割合を調べられるよう、アンケート内容の見直
しを実施していきたい。

会 長 今回は子ども食堂にもヒアリングに行っている。共食の実態を把握できるような
アンケート内容に変更してほしい。

委員 社会福祉協議会では、子ども食堂を支援している以外に、木曜日と金曜日に中学生の学習支援を実施している。その中で子どもたちが勉強に来て、その場で夕食をいっしょに食べている。家族以外でも、ボランティアの方や地域の方も食事をとってくださったことがあったので、ご報告させていただく。

委員 地元の農産物を供給する農家の立場から言うと、安心安全な野菜を出荷しなければならない。世界的には強力な農薬の規制があるが、日本の規制はとても弱い。幼児や子どもたちへの影響はさらに大きいと言う研究者もいる。子どもたちに安全安心の食事を提供するという点で給食センターには期待しているが、1つ要望がある。現在、週1回の弁当持参の日があるということで、色々理由はあると聞くが、完全給食を実施してもらいたい。滋賀県や全国と比べてどういう状況にあるのかも説明してもらいたい。アンケート調査でも、子どもたちに弁当を作っているか聞いていて、作っていないという答えがあるのに、弁当を持ってくるよというのでは矛盾しているように思える。

事務局 弁当日があるのは全国的には珍しく、県内にも他に実施されているところは存じあげない。弁当日を設けることは市の方針ということもあり、この場ではご意見として頂戴しておく。

会長 完全給食を実施する考えはないか。

事務局 新調理場を建設する際の方針として、弁当日は残すことになっており、小学校、中学校とも週に1度弁当日を設けている。また、言葉の上での定義としては、週3回以上給食を提供していれば完全給食ということになっている。

会長 学校給食に使用される食材の農薬の基準はどのようになっているか。

事務局 一般に流通しているものと同じ基準を満たしているという前提で購入している。ただし、年二回ほどではあるが、葉物野菜のように残留しやすいものを抽出し、検査している。

委員 P42について、だいたい何名の方に調査した結果この数字になったか。

事務局 「1. 栗東市内乳幼児 ふだんの「生活習慣」および「食育」に関するアンケート」は、幼稚園と保育園の保護者を対象に実施したもので、昨年度は約2700人分が回収されている。小学校と中学校に対する調査については、年度によって変わるが小・中学生合わせて毎年約7000人。中学生だけの割合では約2000人となっている。「3. 生活と安全に関するアンケート」は、市内の15～69歳の方2000人にアンケ

ートを送付して903名に回答いただいた。「4. 滋賀の健康・栄養調査マップ調査」は全世帯の1%の方に実施した。

会 長 P33の朝食のところは前回みんなの関心があったことから議論を重ねたが、今回の第4章の取組の中で、今回から新しく打ち出したというものがあれば教えてほしい。

事務局 No53の親子料理教室は既存の事業ではあるが、新たに朝食についても扱っていく。既存事業を活用しながら朝食の大切さを啓発できたらと考えており、新しく打ち出す事業としては無い。

会 長 数値が悪化しているの、従来型の啓発だと、次もまた振り返ったときに悪化していることになりかねない。そのため、新しい方策を考えるべき時期に来たのではないかと考えている。現場で活躍されている方が多いと思うので伺いたい。たとえば、子ども食堂で朝食は扱っていないか。

委 員 今のところ朝食を提供する子ども食堂は検討したことはあるが、実施はしていない。

会 長 わたしの大学のある大阪府では全国的に見ても生活保護や貧困の比率が高くなっている。貧困と欠食や朝起きて学校に行くという生活習慣が出来上がっていないことが全部連関しているの、大阪では朝食に力を入れている市町が多くある。特に対象を中学生にしているのが良い点だと思っていて、ここに来れば満足に食べられるというのがあり、それなら早く起きるとなる。地域の方は大変だと聞いているが、かけ声だけではなく、それくらい踏み込んだことをやらないと朝食の大切さは伝わらないのではないかと思います。

(3) 食育とは

- ・事務局が資料の説明を行った。

事務局 前回策定会議で、『食育』という言葉のわかりやすい言葉に置きかえて啓発していくのはどうか、とご意見をいただいた。ただ全国的に食育という言葉で啓発しているので、分かりやすくできたらと考えている。そこで、食育をイメージしやすく説明した資料2のようなページを、計画書に入れてはどうかと考えている。委員の皆様にご意見をいただきたい。

会 長 前回、『食育』という言葉のイメージがしづらいという意見があり、事務局で資料2を考えていただいたということになる。順にお諮りをしたい。まず、資料2を採用することについてはよろしいか。

・意見なし。これにより、資料2を計画素案に入れることとなった。

会 長 次に、文書の内容についてご自由に議論いただきたい。

委 員 たいへんわかりやすく作っていただいてよかったと思う。特に「生涯にわたって」という文言がついているところが、幼児や子どもだけのものと考えがちなのを、そうではないと伝わってよかった。また、栄養士会や職場でも食文化には力を入れているので、「食文化」が入っているのもよい。

会 長 削除や追加の意見がないので、この原案どおりとする。

また、この原案は計画書の先頭に持ってくる形でよいか。

・意見なし。資料2は事務局案のとおり承認された。

(4) パブリックコメントについて

・事務局がパブリックコメントについて説明を行った。

委 員 漢字2文字の「取組」とあるが、「取り組み」のほうが読みやすいと感じる。

事務局 確認のうえ決定したい。

会 長 どちらにするかは事務局で決めると思うが、いずれにせよ表記ゆれのないようお願いしたい。

会 長 前回の計画で集まったパブリックコメントの数は。

事務局 第2次計画は0件で、第1次計画では10件程度。

会 長 総合計画では比較的関心があるのか、どの自治体でも多くなるが、個別の計画ではたとえば食に関して詳しくないとコメントしにくいと思うので、委員の皆様には、知人の方にもパブリックコメントについて周知していただければと思う。

5. その他

・事務局が、10月末までに出了意見を修正した計画書案の最終確認は、会長・副会長一任でよいか諮り、承認された。

・第4回第3次食育推進計画策定会議について

2月7日金曜日午後を予定。パブリックコメントの結果について、また計画書（案）およびダイジェスト版（案）について検討いただきたい。

6. 閉 会

- ・副会長が挨拶を行った。

以上